

令和6年度 「調布市防災教育の日」 訓練実施報告

～ 市統一テーマ訓練「避難所開設訓練の実施」～

【目 的】

東日本大震災を教訓に「**命の尊さ**」を学び「**自らの命は自らが守る**」の意識を高め、児童・生徒自身が**自助、共助**のための必要な知識や行動様式を身につける。

【実施内容】

調布市と地域が避難所開設・運営訓練を市立小・中学校にて一斉に実施した。

日 時；令和6年**4月27日**（土）9時45分～
13時00分

場 所；**調和小学校**（地域開放エリア、校庭）

参加者；調布市職員（リーダー；神代出張所）、地区協・他団体（**大町自治会5名**）

内 容；※参加した訓練のみ記述

凡例；◆初めての訓練

1. ◆特設公衆電話の設置

今回初めての訓練。防災備蓄倉庫（以降「倉庫」）脇の階段を上り、体育館2階に設置された端子ボックスに収納された電話コードを体育館の廊下に引き込み、コードの先に取り付けられた端子ボックスに発信専用の電話器を繋ぎ通話訓練を実施した。

国際専用電話1台あり。

2. ◆図上訓練

防災備蓄倉庫に設置されている「避難所利用計画図」により、受付場所、避難場所・動線、使用可能教室の図上確認訓練を実施した。

3. 避難所設営訓練

（1）避難スペース

◆簡易テント・ベッドの組み立て、ブルーシート敷設

（2）トイレ体験

マンホールトイレ組み立て・設置

（3）食料品・飲料水展示

アルファ米、ライスクッキー、飲料水

（4）その他展示

粉ミルク、哺乳瓶、電気ケトル、蓄電池、ラジオ

4. ◆ハイブリッド発電機の模擬設置訓練

ガソリン又はガスで発電できる発電機と倉庫脇にある分電盤を接続ケーブルで繋ぎ、体育館3階の無線ルームに電力を送る訓練を実施した。

【新たに分かったこと】

1. ハイブリッド発電機

(1) 従来はガソリンによる発電機であったが、今回はガソリン又はガスで発電できる発電機に変わっていた。

(2) 発電機で発電した電力は、体育館で通常使用する照明・コンセント回路に供給できないため回路を確認した結果、発電機で発電した電力は無線ルームへの電力供給のみであった。

(使える電力)

①室内の赤色のコンセントのみ使用可能で、無線ルームのコンセントのみ赤色であり、体育館には赤色は無かった。

②訓練資料には体育館の照明点灯と書いてあったが、体育館・無線ルームには単独照明が見当たらなかったため、発電機による照明点灯はできない。

(3) 分電盤接続箇所

発電機は2台あったが、現物確認の結果下記の通りであった。

①無線設置ルームへの電力供給用

三相200V接地付 ⇒ 250V引掛型

②グラウンド内マンホールトイレ脇分電盤供給用

単相100V接地付 ⇒ 125V引掛型



※①②発電機は、出力電圧が異なるため①②専用発電機となる。

2. 倉庫の人感式LEDライト

昨年無かったライトが設置されていた。人感により点灯せず。

【感想】

1. 簡易テント

昨年までなかった簡易テントが備蓄されていた。約3m四方、高さ約2mで簡単に組み立てられ、ブルーシートと異なりプライバシー保護や騒音・犯罪防止の観点から良い防災用品であった。

2. プールの水

災害発生時に断水で下水管が損壊していない場合は、プールの水はトイレを流す水に役立つため流さない。

3. アルミブラケット

訓練終了後、児童引き取り父兄と児童に装着後の感想を聞いたところ、暖かいとの事であった。

4. 防災食品備蓄

学校教師、父兄に聞き取り調査をしたところ、レジャー用の食品備蓄はしているが、少量であり防災用としての備蓄はしていなかった。



5. 防災用品

ほぼ全員が、石油ストーブは使用していなかった。ファンヒーターは停電時に使用できないことを知らなかった。

6. 多機能ラジオ

学校職員は多機能ラジオの操作方法、機能を知らなかった。手回しで充電が間に合わなかったため、学校の単4電池で動作の確認をした。市の職員から電池は倉庫に保管していることの説明を受けた。去年のJ-COMから市販のラジオに変わっていた。

【要確認事項、課題】

1. 無線ルームの赤色コンセントの電圧

発電機からの供給電圧が200Vの可能性があるため、誤って100V器具をコンセントに接続すると器具損傷のリスクが考えられる。コンセントの電圧確認をする。

2. 発電機用備蓄ガソリン量

ガソリンの備蓄量は8Lで4時間であるため、時間が短すぎる。⇒ 40L未満／消防法令基準に適合した容器で保管

3. 倉庫前のグレーチング損壊

地震により擁壁・グレーチングが損壊した場合は、災害用品の搬出ができない。
⇒ （案）倉庫内南側のドアから搬出できるルールを決める。

4. ペットルーム

ペットルームはプール室になっているが、飼い主も同居するかルール決めが必要
⇒ （案）ルールを決める

5. 体育館のブルーシート・テントの敷設可能数量

市は確認していない。
⇒ 確認する。

6. 特設公衆電話の端子ボックス

体育館階段フロアーのドアの外に設置されおり、電話機は体育館内の通路に設置するが、ドアを開けた状態で電話コードを敷設することになるため、冬期は寒気が室内に入り夏期は虫の侵入が懸念される。
⇒ （案）端子ボックスを屋内に移設する。

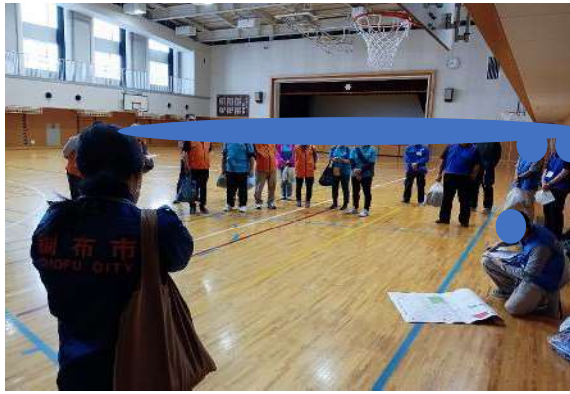
7. 特設公衆電話線

電話線は隣接する電柱から引き込んでいるため、地震で電柱倒壊等の場合は電話が使えない。

8. 防災備蓄倉庫

- （1）資器材配置図に詳細な明記がない。壁に貼った配置図と配置の向きが90度ずれているため、向きが分からないとの意見があった。
⇒ 向きを合わせた詳細配置図の作成・配置
- （2）資器材収納棚が未固定であり、重量の重い物が棚の上に置かれていた。
- （3）奥のコンクリート梁が低い位置に有り、歩行中に頭をぶつけるリスクがある。
⇒ クッション材の取り付け

全体ミーティング



マンホールトイレ組み立て



簡易テント組立



簡易ベッド組立



ブルーシート敷設



アルミブラケット



特設公衆電話



防災食品展示



防災備蓄倉庫人感センサーライト



ハイブリッド発電機ケーブル接続状態



赤コンセント



(参考)

【災害発生による最悪の条件下でのシナリオ】

災害内容

何 時；学校職員がいない日曜日の夕方，気温5度の降雪の2月

何処で；東京都調布市

何 が；直下型の震度6弱の大地震発生

被 害；停電，断水，下水管損壊，建物崩壊，火災発生

この状況下で訓練の実施，住民はこの状況下での減災，備蓄用品・食品の整備が望まれる。

以 上